

音楽資料を対象とした OPAC の FRBR 化*

森安周平(学籍番号 201021758)

研究指導教員:谷口祥一

1. はじめに

現在、図書館では図書や雑誌のみでなく、様々なメディアを資料として管理、提供しており、その中にはカセットテープや CD などの音楽資料も含まれている。音楽資料は1つのメディアに様々な作品が含まれる、1つの作品が様々なメディアに含まれる、同一タイトルの異なる作品が複数存在する、などの7つの特徴があり[1]、また、音楽資料に対する利用者ニーズも演奏者をアクセスポイントとして資料の同定・識別を行いたいという特有のニーズがある[2]。

一方、現在図書館で用いられている OPAC のレコードは典拠コントロールが不十分、演奏者をアクセスポイントとして用いることができないなどの問題が存在する。そこで本研究では、OPAC の FRBR 化により、これらの問題の解決を試みる。FRBR とは国際図書館連盟による「書誌レコードの機能要件」を指し、OPAC を FRBR に基づき再構成することにより、タイトルの多言語性に対応できると考えられ、また FRBR の表現形を用いることで、演奏者をアクセスポイントとして用いることが可能となる。

なお、旧来の研究では録音資料のジャンルをクラシック音楽に限定して OPAC の FRBR 化を行ったものが存在するが[3]、本研究ではジャンル等で書誌レコードを限定せず、JAPAN/MARC で記述された全ての音楽資料を対象とするため、すべての資料に同一の処理を施すことは適切ではない。そのため、書誌レコードの人物情報に注目し、書誌レコードを分類(区分)する。そして、分類されたレコードごとに著作および表現形のグルーピング用に照合キーの作成処理を行う。

2. 研究方法

2.1 書誌レコードの分類

書誌レコードは人物情報に基づき分類を行う。分類の対象となる人物情報は各書誌レコードのフィールド 251 のサブフィールド F(責任表示)とフィールド 377 のサブフィールド A(内容注記)を基に分類した。責任表示は(1)複数出現する、(2)単数出現する、(3)出現しない、の3パターンで、内容注記は(a)出現する、(b)出現しない、の2パターンで分類を行った。責任表示が単数出現するレコードは責任表示内に役割表示の記述の有無に差異があること、そして内容注記が存在するレコードは人物情報の記述の有無に差異があることを確認した。そのため、責任表示が単数出現するレコードは役割表示の有無で、内容注記が出現するレコードは人物情報の有無で細分類を行った。

2.2 照合キーの作成

著作および表現形のグルーピング用に照合キーは、各書誌レコードから著作と表現形のを独立して作成する。照合キーは「照合キー識別番号+曲タイトル+人物情報」で構成した。

曲タイトル情報はフィールド 377 のサブフィールド A(内容注記)より、ない場合はフィールド 251 のサブフィールド A(本タイトル)より抽出した。

人物情報はフィールド 251 のサブフィールド F(責任表示)とフィールド 377 のサブフィールド A(内容注記)、そして著者標目であるフィールド 751 のサブフィールド全てより抽出した。

照合キーの識別番号は書誌レコードの識別番号を用い、曲タイトルや人物情報が複数出現する場合は曲タイトルや人物情報が出現する位置情報を付与して構成した。

抽出した曲タイトルと人物情報は記号の除去などの正規化処理を行った。

2.3 著作と表現型のグルーピング

グルーピングは二段階に分けて行う。まず、照合キーの「曲タイトル+人物情報」の部分と比較し、一

* "FRBRization of OPACs for Music Resources"

致する照合キー同士でグルーピングを行う。次に、グループ同士を比較し、同一の照合キー識別番号を持つグループを併合し、再グルーピングを行う。

2.4 検索システムの作成

検索システムは従来の検索システムに機能を拡張する方法で実装した。求めている資料が著作や表現形のグループに属している場合、詳細情報表示ページにその書誌レコードが所属する著作や表現形のグループへのリンクが表示される。利用者はそのリンクを辿ることで同一の著作や表現形を持つ異なるレコード群に到達できるようにした。

3. 処理結果

本研究では J-BISC に収録された録音資料 64,393 件を対象として処理を行った。書誌レコードの分類とグルーピングの結果について記す。3.1 書誌レコード分類の結果

分類の結果、J-BISC に収録されているレコードで最も多いグループは責任表示が単数で、内容注記に人物情報の記述がないレコード群であり、該当するレコードの数は 34,558 件であった。また、本研究で処理を行うことができない書誌レコードとして、責任表示と内容注記のいずれもないレコード、及び内容注記は記述されているものの人物情報が記述されていないレコードが存在した(合計 9,807 件)。

3.2 照合キーの作成及びグルーピングの結果

作成された照合キーは著作で 592,248 件、表現形では 687,198 件となった。グルーピングを行ったところ、一つのグループに属する識別番号の平均値(単一識別番号からなるグループを含む)は著作が 1.135 件、表現形で 1.108 件となった。なお、単一識別番号からなるグループの数は著作で 391,158 件、表現形で 470,627 件であった。

また、最も多い識別番号を持つ著作グループはベートーヴェンの「交響曲第 7 番イ短調 op.2」で、47 件であった。表現形は 3 つのグループで 20 件となった。1 つはベンチャーズの「10 番街の殺人」であったが、残りの 2 つは曲タイトルがそれぞれ「Announcer」、「ナレーション」となっていた。これは、内容注記の曲タイトル群の間に複数記述されているものをそれぞれ独立した表現形として誤って抽出したものである。

4. 考察

4.1 照合キーの作成とグルーピングについて

本研究では網羅的に照合キーを作成できるよう、著作と表現形を各書誌レコードから作成したが、作成されたグループに属する識別番号数は約 1.1 となった。グルーピングの性能を高めるために、照合キー作成方法に工夫が必要である。具体的には、内容注記に記述された曲タイトル情報の抽出方法の修正及び内容注記から抽出された人物情報の分解などである。また、同一書誌レコードに出現する一般名称のみのタイトルによる誤同定を防ぐ必要もある。

また、本研究では用いなかった照合キー作成方法も考えられる。これは、まず各レコードから著作の情報を抽出し、著作のグルーピングを先に行い、その著作情報に演奏者情報を付与して表現形の照合キーを作成する方法である。この方法を用いると著作と表現形の繋がりがわかりやすくなるが、書誌レコードに著作と表現形の両方の情報が記述されている必要があり、人物情報の抽出もより細かく行う必要が生じる。

4.2 検索システムについて

本研究では既存の OPAC に機能を拡張する形で検索システムを構築した。既存の OPAC と同様の操作としたが、FRBR の構造を容易には把握し難いものとなっている。そこで、検索システムにおける表示方法の変更や、照合キーで用いた「曲タイトル+人物情報」を検索時にも利用するなどの工夫が必要だと考えられる。

文献

- [1] 松下均. 特集:音楽・映像のドキュメンテーション:音楽メディアのドキュメンテーションにおける問題点. 情報の科学と技術. 1999, vol.55, no.3, p.100-105.
- [2] 伊藤真理. 音楽分野のオンライン検索研究. 2009, vol.55, no.1, p.23-28.
- [3] 金子希美. 録音資料を対象とした FRBR OPAC の構築. 筑波大学 2010 年度卒業研究論文.